

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276100399		
法人名	有限会社 稔りの安らぎ		
事業所名	グループホーム 稔りの安らぎ(1階)		
所在地	掛川市西大淵6803-2		
自己評価作成日	平成26年10月23日	評価結果市町村受理日	平成27年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kami=true&jiyosyoCd=2276100399-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成26年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事内容の充実。調理(昼食・夕食)は通常2名の職員が交代で行なうことで、副食の完成度を高めることができています。副食内容のチェックを行なっています。食材の調達も2社。1ヶ月の内2週間の朝食メニューは職員が作り、利用者の喜ぶようなメニューにしています。
・職員のチームワーク。毎日利用者の状況を朝礼で共有して、介護支援を行なっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昭和の風景を色濃く残す遠州横須賀街道に近く、事業所周辺には豊かな田園風景が広がります。田植えから稲刈りまでが眺められる窓辺では、季節の移ろいを知ると共に回想を呼び起こす会話が弾んでいます。今年は食材配達を2社にして目先を変え、朝食にも力を入れました。職員手作りの煮物や出し巻卵、煮豆、焼鮭が喜ばれ、一日の活力となっています。さらに毎月15日を寿司の日と定めて出前をとり、日頃お粥を食べている人でも完食する様子から「食、を一番の楽しみとする演出に長けていることが伝わります。安定した職員構成の下、防災係を中心に消防署との密な連携で災害対策の見直しも図られています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の職員会議で取組んでいます。 ・朝礼で基本理念を唱和し意識の高揚に勤めています。 	<p>“チームワーク、と”日々の学習、を掲げ、研修で得た知識は即実践に移しています。ベテラン職員が揃う風通しの良さから気づきを活かせる場面も多く「すべて笑いに変わる」チームワークがあると管理者は感じています。</p>	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の祭典を見に行きました。 ・日常的には地域との交流は行っていません。 	<p>班長交代の折には必ず挨拶に出向いています。『傘踊り』のボランティアメンバーとは4年のおつきあいで顔馴染みとなり、来所を心待ちにしています。旧大須賀町の『ちっちゃな文化展』には毎年出かけ街並みとふれあいを満喫しています。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・行っていません。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の近況報告 ・評価に関する取組みは行っていません。 ・介護内容に付いての意見交換。 	<p>年間計画に位置付け定期開催していますが家族のみの参加に留まっています。利用者状況や活動報告、心配される津波対策の説明、看取りについての考えを話合うなど要望に耳を傾ける機会となっています。</p>	<p>防災係を中心として災害対策が進んでいるようですので、定例テーマとして確立されていくことを期待します。</p>
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<p>定期的に行っています。サービス提供事業所連絡会出席。</p>	<p>年4回、市や地域包括支援センター職員が同席するサービス提供事業所連絡会に出席し、種別会の中で情報交換や防災対策について協議しています。困難事例は地域包括支援センターとの連携も図っています。</p>	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・拘束は行なっていません。 	<p>玄関施錠もフィジカルロックもありません。スピーチロックに関しては簡潔に「命令語はやめましょう」と伝えていきます。同じことを繰り返しても行動を抑制するのではなく、外まで一緒に付き添ったりドライブに行き気分転換を促しています。</p>	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待はありません。 ・虐待防止に関する研修会に出席しました。 		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護推進委員養成研修の研修を受け、研修報告を行ないました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所時に入居契約書・重要事項説明書の内容について家族に説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・特に聞く機会はありません。 ・運営推進会議で意見要望等を聞き、運営に反映させるようにしています。	年度初めに運営推進会議の日程をお知らせしています。アンケートや家族会はおこなっていませんが面会時は雑談を交え、意向を聴き出すよう努めています。小さな変調でも都度電話連絡をしています。	家族同士のヨコの関係が少しずつでも前進することを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議の時に意見・提案を聞く機会を設け、運営に反映させています。	月に一度の職員会議に限らず日常的に活発な意見交換があります。本年は初任者研修、中間職員研修に参加し「勉強になった」との感想が聞かれ、業務の中で学習を口伝する光景がみられています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・新規採用の職員には施設長、主任が出来る限り付いて一定期間教育を行っています。 ・今年は初任者研修、中堅職員研修に行ってもらいました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・事業所連絡会に年4回出席して意見交換等を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・雑談、世間話等を積極的に行って、困っている事、要望等を聞き出すようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・雑談、世間話等を積極的に行って、困っている事、要望等を聞き出すようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・課題分析を行って、出来ること、出来ないことを基に必要な介護、支援内容を把握してサービスを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者から教えられることも多く、共に感心したり喜んだりすることで、気持ちを通じ合わせるように心掛けている。 ・生活を共にしながら支えあう関係を築くようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族が利用者を支えていただけるように、家族への働きかけを行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族や知人が面会に来てくれるように、お願いをしています。	入居時頻回にあった面会も月日の経過と共に少なくなりますが、入所先の妻のもとへ毎週出かけたり、自宅の様子を見に行く支援をしています。持参した鏡台で髪を結う人、趣味のカメラを続けている人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・気の合う利用者同士を中心に、和が保てるように工夫しています。 ・利用者間のトラブルを未然に防ぐように常に配慮しています。 ・状況によってはユニット間で移動して対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・利用者や家族から相談があれば、積極的に相談に乗っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人一人その人なりの生き方に合わせた介護、支援を心掛けています。	寝る時間や起きる時間、朝食の時間は無理強いせずその日の体調や気分、それぞれの生活リズムに合わせています。意思表示が困難な場合は、職員からのアプローチで変わる表情で推し量り、連絡ノートから情報を共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時に本人及び家族から、今までの生活歴を聞き把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・その人なりの価値観、性格等を十分に把握して介護を行うように心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・計画案を作成した段階で本人、家族と話し合いをしています。面談出来ない家族には計画を郵送して、内容を確認して意見、要望等があれば連絡していただき、意見・要望を取入れて再度計画を作成して、了解を取るようにしています。	3名のケアマネージャーが計画作成し、状態変化がない限り6ヶ月ごとにモニタリングと見直しをおこなっています。ケアマネージャーは現場にも入ることからむせや排泄の失敗など現状を確認する体制ができています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・6ヶ月に1回介護計画の実施状況をモニタリング及び課題分析を行って、介護計画作成に反映させるようにしています。 ・状況が変化すればそのつど介護計画を作成しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・個別の状況に合わせた介護、支援及び要求に対応したサービスを行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティアの慰問を活用して娯楽内容の充実を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・主治医との連絡を密にして定期受診、不定期の受診等状況に応じて、家族の協力も得て行っています。	近くの内科医に8割の利用者が変更しており、月に一度定期受診に同行しています。異変があればバイタル表など書面をもって説明しています。かかりつけ医を継続している人も3名あり、家族の協力を得ています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・行っていません。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・主治医及び医療連携室と連携を密にして行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・状況に応じて家族に説明して、医療機関の利用や他老人施設等への移行について支援を行っています。	家族からは「出来るだけ見てほしい」との声があり、医療的行為が発生しない限りは努力していくことを伝えています。医師の指示により看護師の処置が常時必要になった時や食事摂取が困難になってきた段階から話し合いをもつ考えです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・職員会議等で確認しています。 ・新規採用職員には救急講習に参加して、応急手当の知識を習得するようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・地元消防団及び南遠工芸と緊急時の支援体制が取れるように、防災訓練に参加して災害時に備えるようにしています。	年2回実施し利用者全員の避難を体験しています。消防署から指摘があった時間短縮を目指し、シーツと衣装ケースを利用した担架を製作しています。本年は防災係が中心となり、消防署の指摘を基に災害対策を見直しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の状況に合わせながら尊厳、プライバシーを守る努力を行っています。	耳が遠い人には排泄や入浴の声かけを耳元でしたり、理解力に応じた話し方を心がけています。親しみを込め愛着ある地元言葉での会話であっても、目上の人への敬意を込めるよう指導しています。	生活のなかで方言で親しみを演出したりも必要なことですが、電話対応では適切な言葉遣いができるよう職員間で高め合うことを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・自己決定を尊重した介護を行っています。筆談・身振り手振り等を使って利用者の意見、希望等を聞き自己決定できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・本人の考えや希望を受入れて、個々のペースに合わせた介護、支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・散髪は2ヶ月1回実施し、出来るだけ本人の希望を取り入れる様にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者と職員が楽しく食事を食べています。	食材配達を2社にして目先を変え、月の半分は充実した朝食献立を提供しています。煮物や出し巻卵、鮭、煮豆が喜ばれ一日の始まりの活力となっています。毎月15日を寿司の日と決めて出前を取り、クリスマスには手作りケーキも加わっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養・水分補給については出来ています。 ・食事摂取量は毎食記録しています。水分補給の記録は必要に応じて行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後口腔ケアを行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・自立出来ていない人は、排泄の間隔を把握してトイレ誘導を行い、必要に応じて必要な介護を行っています。日中は基本的にはトイレでの排泄を行うようにしています。	夜間おむつの人でも日中はリハビリパンツに替え、一人ひとりのパターンを把握して誘導することでほとんど失敗なく過ごさせています。睡眠を優先する方針ですが、ポータブルトイレの使用で自立できている人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘のある人は医師から便秘薬を処方してもらい、排便状況を把握しながら服薬を行っています。 ・予防として野菜等の食物繊維を取り入れた献立を実施しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴は2日に1回実施しています。排泄で汚した人は、状況に応じてそのつどシャワー浴を行っています。	肩まで浸かりじっくり時間をかけることが何よりの満足感となっています。リラックスした場では会話も弾み、五月には施設長が栽培している菖蒲湯が味わえます。皮膚疾患や全身状態が観察できる時間でもあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・本人の睡眠パターンに合わせた支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員管理のもと全員薬を飲み込むまで確認するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・潜在能力を引き出すように心掛け、活力ある生活を送れるように支援しています。 ・ゲーム、裁縫、塗り絵、ドリル等の活動も取り入れて、生活内容の充実を図るようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・散歩、日光浴・ドライブを行なっています。 ・外出は家族の協力をお願いしています。	気候の良い時季には近くの公園まで散歩したり、広い駐車場での外気浴をおこなっています。隣接する人形展は正月飾り、雛人形、五月人形の展示があり「目の保養」と喜ばれています。外出のお土産は鯛焼きが定番です。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・現在は自分で金銭管理の出来る状態の人はいませので、買い物は職員が付添いお金の支払は職員が行なっています。支払金は施設で立替、毎月の請求書で請求しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話を掛けれる能力の人は現在はいません。家族からかかってきた電話に、出れる利用者は電話に出てもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・温度、湿度、採光管理に気をつけ、季節の花等を飾って季節感を感じることが出来るようにしています。	散歩先で摘んだものや職員が持ち寄った花が活けられ、田園風景豊かな事業所周辺は田植えから稲刈りまでが眺められることが話材になります。温度湿度計による管理と感染症予防のため加湿器には除菌剤を入れて噴霧しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・面談室・多目的室を使ったりして居場所作りに工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人の希望を取り入れ、家族の協力を得て行っています。	ベッド、エアコン、カーテン、クローゼットが備付けです。書棚や家族の写真、テレビが持込まれていますが、動線確保のために家具を整理する時もあります。畳に置かれた鏡台や孫替わりの人形に暮らしの安寧が垣間見えました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・少しでも出来る事は職員と一緒にを行うようにしています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276100399		
法人名	有限会社 稔りの安らぎ		
事業所名	グループホーム 稔りの安らぎ(2階)		
所在地	掛川市西大淵6803-2		
自己評価作成日	平成26年10月23日	評価結果市町村受理日	平成27年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 x.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=227

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成26年12月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事内容の充実。調理(昼食・夕食)は通常2名の職員が交代で行なうことで、副食の完成度を高めることができています。副食内容のチェックを行なっています。食材の調達は2社。1ヶ月の内2週間の朝食メニューは職員が作り、利用者の喜ぶようなメニューにしています。
・職員のチームワーク。毎日利用者の状況を朝礼で共有して、介護支援を行なっています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昭和の風景を色濃く残す遠州横須賀街道に近く、事業所周辺には豊かな田園風景が広がります。田植えから稲刈りまでが眺められる窓辺では、季節の移ろいを知ると共に回想を呼び起こす会話が弾んでいます。本年は食材配達を2社にして目先を変え、朝食にも力を入れました。職員手作りの煮物や出し巻卵、煮豆、焼鮭が喜ばれ、一日の活力となっています。さらに毎月15日を寿司の日と定めて出前をとり、日頃お粥を食べている人でも完食する様子から「食、を一番の楽しみとする演出に長けていることが伝わります。安定した職員構成の下、防災係を中心に消防署との密な連携で災害対策の見直しも図られています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の職員会議で取組んでいます。 ・朝礼で基本理念を唱和し意識の高揚に勤めています。 	<p>“チームワーク、と”日々の学習、を掲げ、研修で得た知識は即実践に移しています。ベテラン職員が揃う風通しの良さから気づきを活かせる場面も多く「すべて笑いに変わる」チームワークがあると管理者は感じています。</p>	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の祭典を見に行きました。 ・日常的には地域との交流は行っていません。 	<p>班長交代の折には必ず挨拶に出向いています。『傘踊り』のボランティアメンバーとは4年のおつきあいで顔馴染みとなり、来所を心待ちにしています。旧大須賀町の『ちっちゃな文化展』には毎年出かけ街並みとふれあいを満喫しています。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・行っていません。 		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の近況報告 ・評価に関する取組みは行っていません。 ・介護内容に付いての意見交換。 	<p>年間計画に位置付け定期開催していますが家族のみの参加に留まっています。利用者状況や活動報告、心配される津波対策の説明、看取りについての考えを話合うなど要望に耳を傾ける機会となっています。</p>	<p>防災係を中心として災害対策が進んでいるようですので、定例テーマとして確立されていくことを期待します。</p>
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	<p>定期的に行っています。サービス提供事業所連絡会出席。</p>	<p>年4回、市や地域包括支援センター職員が同席するサービス提供事業所連絡会に出席し、種別会の中で情報交換や防災対策について協議しています。困難事例は地域包括支援センターとの連携も図っています。</p>	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・拘束は行なっていません。 	<p>玄関施錠もフィジカルロックもありません。スピーチロックに関しては簡潔に「命令語はやめましょう」と伝えていきます。同じことを繰り返しても行動を抑制するのではなく、外まで一緒に付き添ったりドライブに行き気分転換を促しています。</p>	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待はありません。 ・虐待防止に関する研修会に出席しました。 		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護推進委員養成研修の研修を受け、研修報告を行ないました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所時に入居契約書・重要事項説明書の内容について家族に説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・特に聞く機会は設けていません。 ・運営推進会議で意見要望等を聞き、運営に反映させるようにしています。	年度初めに運営推進会議の日程をお知らせしています。アンケートや家族会はおこなっていませんが面会時は雑談を交え、意向を聴き出すよう努めています。小さな変調でも都度電話連絡をしています。	家族同士のヨコの関係が少しずつでも前進することを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議の時に意見・提案を聞く機会を設け、運営に反映させています。	月に一度の職員会議に限らず日常的に活発な意見交換があります。本年は初任者研修、中間職員研修に参加し「勉強になった」との感想が聞かれ、業務の中で学習を口伝する光景がみられています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・職場環境の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・新規採用の職員には施設長、主任が出来る限り付いて一定期間教育を行っています。 ・今年は初任者研修、中堅職員研修に行ってもらいました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・事業所連絡会に年4回出席して意見交換等を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・雑談、世間話等を積極的に行って、困っている事、要望等を聞き出すようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・雑談、世間話等を積極的に行って、困っている事、要望等を聞き出すようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・課題分析を行って、出来ること、出来ないことを基に必要な介護、支援内容を把握してサービスを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・利用者から教えられることも多く、共に感心したり喜んだりすることで、気持ちを通じ合わせるように心掛けている。 ・生活を共にしながら支えあう関係を築くようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・家族が利用者を支えていただけるように、家族への働きかけを行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・家族や知人が面会に来てくれるように、お願いをしています。	入居時頻回にあった面会も月日の経過と共に少なくなりますが、入所先の妻のもとへ毎週出かけたり、自宅の様子を見に行く支援をしています。持参した鏡台で髪を結う人、趣味のカメラを続けている人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・気の合う利用者同士を中心に、和が保てるように工夫しています。 ・利用者間のトラブルを未然に防ぐように常に配慮しています。 ・状況によってはユニット間で移動して対応しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・利用者や家族から相談があれば、積極的に相談に乗っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人一人その人なりの生き方に合わせた介護、支援を心掛けています。	寝る時間や起きる時間、朝食の時間は無理強いせずその日の体調や気分、それぞれの生活リズムに合わせています。意思表示が困難な場合は、職員からのアプローチで変わる表情で推し量り、連絡ノートから情報を共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時に本人及び家族から、今までの生活歴を聞き把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・その人なりの価値観、性格等を十分に把握して介護を行うように心掛けています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・計画案を作成した段階で本人、家族と話し合いをしています。面談出来ない家族には計画を郵送して、内容を確認して意見、要望等があれば連絡していただき、意見・要望を取入れて再度計画を作成して、了解を取るようにしています。	3名のケアマネージャーが計画作成し、状態変化がない限り6ヶ月ごとにモニタリングと見直しをおこなっています。ケアマネージャーは現場にも入ることからむせや排泄の失敗など現状を確認する体制ができています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・6ヶ月に1回介護計画の実施状況をモニタリング及び課題分析を行って、介護計画作成に反映させるようにしています。 ・状況が変化すればそのつど介護計画を作成しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・個別の状況に合わせた介護、支援及び要求に対応したサービスを行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティアの慰問を活用して娯楽内容の充実を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・主治医との連絡を密にして定期受診、不定期の受診等状況に応じて、家族の協力も得て行っています。	近くの内科医に8割の利用者が変更しており、月に一度定期受診に同行しています。異変があればバイタル表など書面をもって説明しています。かかりつけ医を継続している人も3名あり、家族の協力を得ています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・行っていません。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・主治医及び医療連携室と連携を密にして行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・状況に応じて家族に説明して、医療機関の利用や他老人施設等への移行について支援を行っています。	家族からは「出来るだけ見てほしい」との声があり、医療的行為が発生しない限りは努力していくことを伝えています。医師の指示により看護師の処置が常時必要になった時や食事摂取が困難になってきた段階から話し合いをもつ考えです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・職員会議等で確認しています。 ・新規採用職員には救急講習に参加して、応急手当の知識を習得するようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・地元消防団及び南遠工芸と緊急時の支援体制が取れるように、防災訓練に参加して災害時に備えるようにしています。	年2回実施し利用者全員の避難を体験しています。消防署から指摘があった時間短縮を目指し、シートと衣装ケースを利用した担架を製作しています。本年は防災係が中心となり、消防署の指摘を基に災害対策を見直しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の状況に合わせながら尊厳、プライバシーを守る努力を行っています。	耳が遠い人には排泄や入浴の声かけを耳元でしたり、理解力に応じた話し方を心がけています。親しみを込め愛着ある地元の言葉での会話であっても、目上の人への敬意を込めるよう指導しています。	生活のなかで方言で親しみを演出したりも必要なことですが、電話対応では適切な言葉遣いができるよう職員間で高め合うことを期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・自己決定を尊重した介護を行っています。筆談・身振り手振り等を使って利用者の意見、希望等を聞き自己決定できるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・本人の考えや希望を受入れて、個々のペースに合わせた介護、支援を行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・散髪は2ヶ月1回実施し、出来るだけ本人の希望を取り入れる様にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・利用者と職員が楽しく食事を食べています。	食材配達を2社にして目先を変え、月の半分は充実した朝食献立を提供しています。煮物や出し巻卵、鮭、煮豆が喜ばれ一日の始まりの活力となっています。毎月15日を寿司の日と決めて出前を取り、クリスマスには手作りケーキも加わっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・栄養・水分補給については出来ています。 ・食事摂取量は毎食記録しています。水分補給の記録は必要に応じて行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後口腔ケアを行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・自立出来ていない人は、排泄の間隔を把握してトイレ誘導を行い、必要に応じて必要な介護を行っています。日中は基本的にはトイレでの排泄を行うようにしています。	夜間おむつの人でも日中はリハビリパンツに替え、一人ひとりのパターンを把握して誘導することでほとんど失敗なく過ごせています。睡眠を優先する方針ですが、ポータブルトイレの使用で自立できている人もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・便秘のある人は医師から便秘薬を処方してもらい、排便状況を把握しながら服薬を行っています。 ・予防として野菜等の食物繊維を取り入れた献立を実施しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴は2日に1回実施しています。排泄で汚した人は、状況に応じてそのつどシャワー浴を行っています。	肩まで浸かりじっくり時間をかけることが何よりの満足感となっています。リラックスした場では会話も弾み、五月には施設長が栽培している菖蒲湯が味わえます。皮膚疾患や全身状態が観察できる時間でもあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・本人の睡眠パターンに合わせた支援を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・職員管理のもと全員薬を飲み込むまで確認するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・潜在能力を引き出すように心掛け、活力ある生活を送れるように支援しています。 ・ゲーム、裁縫、塗り絵、ドリル等の活動も取り入れて、生活内容の充実を図るようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	・散歩、日光浴・ドライブを行なっています。 ・外出は家族の協力をお願いしています。	気候の良い時季には近くの公園まで散歩したり、広い駐車場での外気浴をおこなっています。隣接する人形展は正月飾り、雛人形、五月人形の展示があり「目の保養」と喜ばれています。外出のお土産は鯛焼きが定番です。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・現在は自分で金銭管理の出来る状態の人はいませんので、買い物は職員が付添いお金の支払は職員が行なっています。支払金は施設で立替、毎月の請求書で請求しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話を掛けれる能力の人は現在はいません。家族からかかってきた電話に、出れる利用者は電話に出てもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・温度、湿度、採光管理に気をつけ、季節の花等を飾って季節感を感じることが出来るようにしています。	散歩先で摘んだものや職員が持ち寄った花が活けられ、田園風景豊かな事業所周辺は田植えから稲刈りまでが眺められることが話材になります。温度湿度計による管理と感染症予防のため加湿器には除菌剤を入れて噴霧しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・面談室・多目的室を使ったりして居場所作りに工夫しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人の希望を取り入れ、家族の協力を得て行っています。	ベッド、エアコン、カーテン、クローゼットが備付けです。書棚や家族の写真、テレビが持込まれていますが、動線確保のために家具を整理する時もあります。畳に置かれた鏡台や孫替わりの人形に暮らしの安寧が垣間見えました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・少しでも出来る事は職員と一緒にを行うようにしています。		